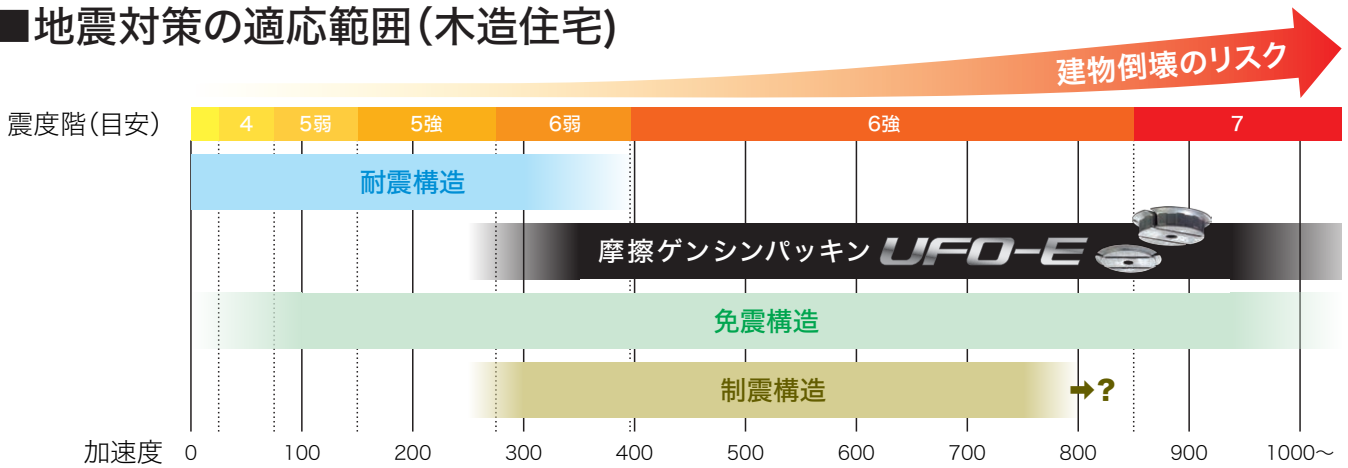


免震、制震、耐震、そして減震…どう違う？

■地震対策の適応範囲(木造住宅)



■地震対策の比較表(木造住宅)

	耐震構造	摩擦ゲンシンパッキン UFO-E	免震構造	制震構造
目的	震度6(300gal)まで倒壊しない強度を確保する	躯体に地震のエネルギーが伝わる前に摩擦により減震	地震の揺れを逃がして躯体にエネルギーを伝えない	制振材により、揺れや地震のエネルギーを低減
方法	耐震壁を強化する	建物と基礎の間に摩擦ゲンシンパッキン UFO-E	建物と基礎の間に積層ゴム、ローラなどの免震材	壁内にオイルダンパー、粘性ゴムなど
価格	グレードによりまちまち	15~50万円*1	500万円前後	40~100万円
メンテナンス	不要	不要	地震後点検・定期点検	不要
プランの自由度	壁の配置	問題なし	問題なし	壁の量が多くなる
施工条件	特になし	特になし	軟弱地盤不可	壁倍率に算入されず不要の壁が増える*2
↓ 関東大震災/阪神淡路大震災クラスの大地震が発生したら？				
性能	大地震には倒壊の恐れあり	大地震を300~400galに低減	大地震を震度3~5に低減	木造壁に負担が多く減震を期待できない
偏芯・バランス	壁の配置に要注意	問題なし	問題なし	壁の配置に要注意
家具の転倒	要転倒防止	要転倒防止	家具の形状により個別対策	要転倒防止
総合評価	大型地震に追加対策が必要	安価で減震効果大 木造の大地震対策に最適	減震効果大だが高価	偏芯・バラバラ揺れ 木造には不向き

*1：大規模住宅の場合には、50万円を超えるケースもございますので別途ご相談ください。

*2：壁倍率に算入される制振壁に要注意。ゴム、ゲル材、金属等、異なる固有周期を持つパネル材を木造に混入させると思わぬバラバラ振動を起こします。木材で壁倍率を確保することをお勧めします。